2　社会科

中学校社会科歴史的分野における方策

「中世の日本」
－「歴史新聞を作ろう！」－　　（第１学年）

(1) 教科の目標や内容とのかかわりと研究の視点

中学校社会科において、知識の詰め込みに偏った学習に陥りやすい現状が指摘されている。また、社会科は暗記教科という見方は一般的にかなり根強いと考えられる。

新学習指導要領では、学習の過程を大切にし、学び方を学ぶ学習を一層重視する観点から、教科の目標及び内容が改訂された。その実現を図る取組の一つに、適切な課題を設けて行う学習（以下「課題学習」）の充実がある。「課題学習」は、一定のまとまった時間を配当し、課題を見い出し追究するかたちで展開できるよう工夫することが望まれている。

また、歴史的分野の基本的な目標は次のとおりである。

> 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

この目標には、我が国の歴史を学ぶ基本を「歴史の大きな流れと各時代の特色」とすることが示されている。従前は９項目であった通史的な内容も、「古代までの日本」「中世の日本」「近世の日本」「近現代の日本と世界」の４項目に再構成された。歴史の流れを大きくとらえる学習では、各時代ごとに節目となる事象を取り上げ、それを多面的・多角的に思考・判断することで他の事象と関連付けを図ることができる。

課題の追究過程を大切にしたり、歴史の流れを大きくとらえる学習を研究の視点①（教科独自の指導方法を生かす視点）で具体化した一例を次に示す。

［歴史的分野における授業改善例］

○　大きな時代区分の中で、歴史の転換点と考える事象を生徒に選択させ、それにかかわる課題を深く追究させる。
○　「課題学習」の導入においては、現代社会とのつながりの考察や「もし、そのできごとが起きていなければ歴史はどうなっていたか」の予想など、課題の追究の観点を提示し、それ以後の学習に見通しをもって学習活動に取り組ませる。
○　年表や地図、歴史新聞等を作成したり、討論や歴史的場面のロールプレイングを行ったりするなど、様々な学習場面でねらいに応じて自己表現する活動を取り入れる。
○　歴史的事象の考察に当たって、同じ歴史的できごとや人物を取り上げても、人によって様々な見方や考え方ができることに気付かせ、学級やグループでその見方や考え方のよさを認め合う。
○　追究過程を振り返る場を適切に設け、習得した歴史の学び方を次の学習に生かすなど、指導の継続性を図る。

(2) 単元名と単元設定の理由

ア　単元名

「中世の日本」－歴史新聞を作ろう！－

イ　単元設定の理由

本単元は、新学習指導要領の内容「中世の日本」に位置付き、12世紀から15世紀ごろまでの範囲を扱う。時代の区分で言えば、鎌倉時代及び室町時代がその中心であるが、歴史を大きな流れとしてとらえるために、それらを一つのまとまりとして単元を設定する。

この時期の我が国では、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府の成立などにより武士の支配が拡大し、応仁の乱は戦国の世を迎えるきっかけになった。また、農業などの諸産業が発達し、畿内を中心に都市や農村には自治的な組織がつくられた。武士や民衆の成長を背景に新しい文化も生まれた。対外的には、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、東アジアと密接なかかわりが見られた。このように、「中世の日本」は武家社会の成立と展開を中心として、政治や社会、文化の面で大きな変化が見られた時代である。

本単元において、生徒は「中世社会の展開と東アジア情勢」を学習した後、中世の日本の特色を表すと考える事象（事件・人物・文化遺産等）を一つ取り上げる。そして、他の事象と関連付けを図りながら、その事象について調べた結果を歴史新聞にまとめていく。作成する歴史新聞は、達成感をより実感させるために一人一作品（Ｂ４版１枚）とする。

また、この「課題学習」の指導過程は、学習指導要領の趣旨を踏まえ、課題追究的なものとし、学び方の習得を併せて図る。具体的には、全19時間を「課題把握」「情報収集とその考察」「情報整理」「課題探究」「まとめ」の各段階で構成する。

さらに、各段階ごとの指導においては、以下の点に留意する。

① 「課題把握」の段階

・　19時間にわたる学習活動に見通しをもつことができるように、単元のねらいや評価の観点、扱う時代区分、新聞作成の手順等を知らせる。

② 「情報の収集とその考察」の段階

・　この段階では、元寇や応仁の乱など個別事象の理解を図るが、事象の考察に当たっては、安易に他者に頼ったり、その模倣にならないように留意する。
・　授業中の生徒の発言については、その意図や思いが学級全体に伝わるようにする。

③ 「情報整理」及び「課題探究」の段階

・　限られた時間内で新聞が完成できるように、記事を選んだ理由と追究の観点をはっきりさせてから、新聞作成の作業に取りかからせる。
・　学級全員の見出しを互いに知る機会を設けたり、同じできごとを扱っても、生徒によって様々な見方や考え方があることに気付かせるなど、オリジナルな新聞を作成しようとする意欲を喚起する。

④ 「まとめ」の段階

・　課題の追究過程を振り返る中で新聞を評価し合い、完成した喜びと充実感を感じ取らせる。
・　学年全員の作品を一斉に貼り出し、互いの作品のよさに気付かせる。

なお、この単元後の歴史学習（「近世の日本－世界の動きと天下統－」）では、ヨーロッパ人の来航や織田・豊臣による統一事業などを扱う。世界史を背景に我が国の歴史が大きく転換することから、世界地図上に事象間の関連を表現するという「課題学習」－世界地図を作ろう！－を行い、本単元で習得した学び方を生かすことにする。

(3) 単元目標

・　中世の日本の歴史に関心をもち、見通しをもって歴史新聞づくりに取り組もうとする。（社会的事象への関心・意欲・態度）
・　東アジア情勢や現在の日本とのつながりを踏まえながら、我が国の中世の歴史を多面的・多角的に考察し判断する。（社会的な思考・判断）
・　武家社会の展開に関して収集した様々な資料を選択、加工し、読み手に分かりやすい新聞づくりに生かす。（資料活用の技能・表現）
・　中世の歴史の大きな流れとその様子を把握するとともに、新聞の作成を通して歴史的できごとや人物についての理解を深める。（社会的事象についての知識・理解）

(4) 単元指導計画（p.93.94参照）

(5) 指導上の工夫

ア　自己コントロール力にかかわって

第２章のアンケート調査で、「長い時間をかけて取り組まなければならない学習」において、がんばって取り組むことが「できない」又は「あまりできない」と答えた生徒は、中学校１年で48.6%であった。そのため、「歴史新聞を作ろう！」では、学習活動が１ヶ月以上にもわたるため、最初に高い関心を示しても徐々に意欲の低下をまねく心配があった。

こうした意欲の低下は、逃避的な学習態度や授業中の私語などの否定的な欲求を抑えきれない現象となって現れることが予想される。すなわち、生徒の中で機能する自己をコントロールする力の貧弱さの現れである。しかしながら、長い時間をかけて取り組む学習には、多少の困難は伴うものである。そこで、研究仮説（p.1）にあるとおり、自己の学習状況を客観的に整理し認識したり、課題解決に向けて積極的に忍耐強く努力する自己コントロー力を発揮させることが大切となる。

これらの点を踏まえ、本単元では、見通しをもって課題に取り組ませること、学習内容が分からないことによりイライラ感をつのらせたり、投げやりな学習態度とならないようにすること、今後の学習活動において課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるような資質能力を育てておくことに配慮した。そのために行った具体的な指導上の工夫は、次のとおりである。

(ｱ) 補助教材「社会科歴史ノート」の活用
(ｲ) 基礎的・基本的な内容の確実な定着（確認テスト）
(ｳ) 歴史的事象の追究方法（学び方）の学習の充実

(ｱ) 「社会科歴史ノート」の活用

「社会科歴史ノート」は、普段の授業で用いるノートとは別に、歴史新聞の作成に向けて情報を記録し、整理するために教師が用意した補助教材である。見通しをもって学習活動が進められるように、指導過程に見合うように内容を構成・配列した。これにより、現在取り組んでいる学習活動が、単元の中でどのような位置付けにあるのかを把握できるようにした。具体的な「社会科歴史ノート」の活用方法は次のとおりとした。

中世の日本－「歴史新聞を作ろう！」－　単元指導計画

時	指導過程と指導内容	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点	評　　価	自己ｺﾝﾄﾛｰﾙ力をはぐくむ視点★ 自己肯定感をはぐくむ視点○
1	課題把握 ○「課題学習」の意欲の喚起 ○時代区分の理解	・単元のねらい、評価の観点、新聞作成の手順や調べ方を知る。 ・「課題学習」で扱う時代区分を教科書と年表で確認する。 ・補助教材「社会科歴史ノート」の活用方法を把握する。	・「課題学習」の具体的なイメメージがつかめるように配慮する。 ・歴史的事象に「なぜ」と問いかけたり、多面的・多角的に考察することが評価されることを伝えておく。	・「課題学習」に意欲的に取り組んでいる。 （関・意・態）	★ 19 時間にわたる「課題学習」に見 通しをもって取り組む姿勢をもつ。 ○自分のアイデアや考えを歴史新聞に表現することに前向きにかかわろうとする。
11	情報収集とその考察 ○「中世社会の展開と東アジア情勢」の理解 （・鎌倉幕府と鎌倉文化 ・モンゴルの襲来と社会の変動 ・民衆の成長と戦国大名） ○歴史的事象間の関連付け	・武士による支配の拡大とその後の展開を理解する。 ・毎時間、授業開始時に確認テストに取り組む。 ・様々な事象について、「なぜ」という疑問をもったり、記事にしたいと思ったことを「社会科歴史ノート」にメモする。 ・メモの内容を整理し、前後の関係を把握する。 ・質問事項を連絡カードに記入し、教師に提出する。	・授業開始時に、前時の学習内容の確認テストを行う。 ・新聞作成に役立つメモの取り方について、適宜、指導する。 ・事象を考察する際に、自分なりの見方や考え方を大切にするよう助言する。 ・生徒の発言の意図や思いが学級全体に伝わるように配慮する。 ・随時ノートを点検したり、連絡カードの疑問点に答えるなど、きめ細かな指導を行う。	・事象の考察を通して、中世の歴史への関心を高める。（関・意・態） ・歴史の大きな流れを東アジアとの関係や現在の社会と関連付けて考えている。　（思・判） ・新聞づくりに向けて情報を収集し、有効に活用している。（資・表） ・中世の歴史の移り変わりの様子を理解し、その知識を身に付けている。　（知・理）	★事象の考察に当たって、安易に他者に頼らないようにする。 ★新聞記事の選定を考えながらメモを取ったり、事象間の関連付けを図る。 ★確認テストでつまずいたことを復習したり、連絡カードに質問事項を記入するなど、分からないことをそのままにしない。 ○未知の事象を知ったり、既知のことがらについて新しい発見をしたりすることで、歴史学習のおもしろさを味わう。 ○事象に「なぜ」と問うことを肯定的にとらえ、多面的・多角的な考察を進んで行う。
1	情報整理 ○中世の歴史の大きな流れの理解 ○既知内容の確認と整理	・中世のできごとや人物を「重大さランク」に位置付け、歴史の転換点を考える。 ・歴史新聞に活用できるよう、既知内容や収集資料を整理する。 ・「社会科歴史ノート」のメモで、不十分な点を補う。	・「重大さランク」への位置付けを記事の内容に生かすようにさせる。 ・ノート点検等で把握した、定着が図られていない事項を再度指導する。	・特徴的なできごとや人物の考察を通して、歴史の大きな流れを考えている。　（思・判） ・収集資料や情報を整理し、新聞作成に生かしている。　（資・表）	★収集資料や情報を新聞づくりに生かそうとする。 ○これまでの学習を踏まえて、歴史の大きな転換点を自ら考えようとうする。

時	指導過程と指導内容	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点	評　　価	自己ｺﾝﾄﾛｰﾙ力をはぐくむ視点★ 自己肯定感をはぐくむ視点○
5	課題探究 ○記事の内容と見出しの決定	・記事の内容と見出しを考える。 ・なぜその記事にするのか、理由をはっきりさせる。 ・その記事について、適切な追究課題を設定するとともに、追究の観点を考える。	・学級で見出しの交流を行い、多様なアイデアがあることに気付かせる。 ・新聞作成に見通しをもてるよう助言する。	・新聞作成に意欲的に取り組もうとしている。（関・意・態） ・特徴的なできごとや人物の考察を通して、歴史の大きな流れを考えている。（思・判） ・読み手に分かりやすい新聞になるように工夫している。（資・表） ・新聞の記事にかかわる歴史的事象について理解を深める。（知・理）	★限られた時間を有効に活用して新聞を完成させようとする。 ○記事内容について、どんな課題を探究していくか自己決定する。
	○資料の活用と事象の考察	・調べ学習を行い、自らの課題を探究する。 ・基礎的・基本的内容を基に、より深く事象を考察する。	・校内の図書等で活用できるものを整理しておき、生徒に情報提供する。 ・やりきる喜びとよりよいものを作ろうとする意欲を喚起する。		★課題の探究に当たって、資料の丸写しはせず、自らの力で進めようとする。
	○歴史新聞の完成	・収集・整理・考察した情報から見出しを再検討する。 ・下書きをした後、歴史的事象を確認したり、見やすさを考えながら新聞を校正する。	・記事を選んだ意図がうまく新聞に表現できていない生徒に助言する。 ・新聞の内容に基本的な誤りがあれば修正させる。		★最後まで粘り強く新聞づくりに取り組もうとする。 ○よりよい新聞の完成に向けて、自らのよさを積極的に発揮しようとする。
1	まとめ ○「課題学習」の評価	・「課題学習」を振り返る。 ・グループ及び学級で新聞を相互評価し、グランプリを選ぶ。 ・自己の追究過程を振り返り、学習の成果と課題を感想欄に記入する。	・新聞の評価の観点や方法をていねいに説明する。 ・自他の作品のよさに気付かせるとともに、新聞がオリジナルなものであることを伝え、充実感をより実感させる。	・歴史新聞の評価を通して、歴史への関心を高める。（関・意・態）	★評価の観点や方法に即して、新聞の評価を行ったり、自己の追究過程を振り返る。 ○歴史新聞を完成させた喜びと充実感を味わう。 ○互いの作品のすばらしい点を認め合う。
	（事後の取組） ○新聞の公開と相互評価	・校内に掲示された学年全員の作品を見る。 ・各学級のグランプリ作品の中から、学年グランプリを選ぶ。	・作品の公開のための掲示板を確保しておく。 ・学年全員の新聞を歴史的に古い順から並べて貼り出す。		○「課題学習」に取り組み、最後までやり遂げたことに自信をもつとともに、自他の作品のよさを認め合う。

※（関・意・態）‥‥社会的事象への関心・意欲・態度　（思・判）‥‥社会的な思考・判断　（資・表）‥‥資料活用の技能・表現　（知・理）‥‥社会的事象についての知識・理解

○　新聞作成上のポイントや手順等を記載しておき、「課題把握」での説明資料とした。

○　「情報収集とその考察」（11時間配当）で学習した様々な事象のなかで、新聞作成に生かすことができると考えた情報を記録させた（p.96参照）。基本的には、この記録を新聞記事を考える出発点とさせた。

○　「情報整理」では、中世の歴史に大きな役割を果たしたと考えるできごとや人物を生徒にいくつか選ばせた。さらに、それらを歴史の移り変わりに果たした役割が重大であると考える順にランクを付けさせ（「重大さランク」）、「社会科歴史ノート」に記録させた。

○　次の単元での「課題学習」（「歴史地図を作ろう！」）の内容を続けて掲載しておき、学期全体を通して「社会科歴史ノート」を活用した。また、学期の終わりには、二つの「課題学習」で扱った時代区分の中で、最も関心をもった歴史上の人物の似顔絵を表紙に描かせた（写真参照）。

(ｲ)　基礎的・基本的な内容の確実な定着

歴史新聞づくりでは、基礎的・基本的な内容の定着がなければ、事象間の関連付けが図られず、新聞の内容は事実の羅列になってしまうおそれがある。きれいに仕上げるとか、色づかいをよくするなどばかりに関心が向き、「課題学習」本来の趣旨からそれた学習活動にもなりかねない。自ら考えようとせず、資料の丸写しで終わらせてしまうことも考えられる。また、授業内容がわからなくなると、私語になる状況になってしまうことも考えられる。

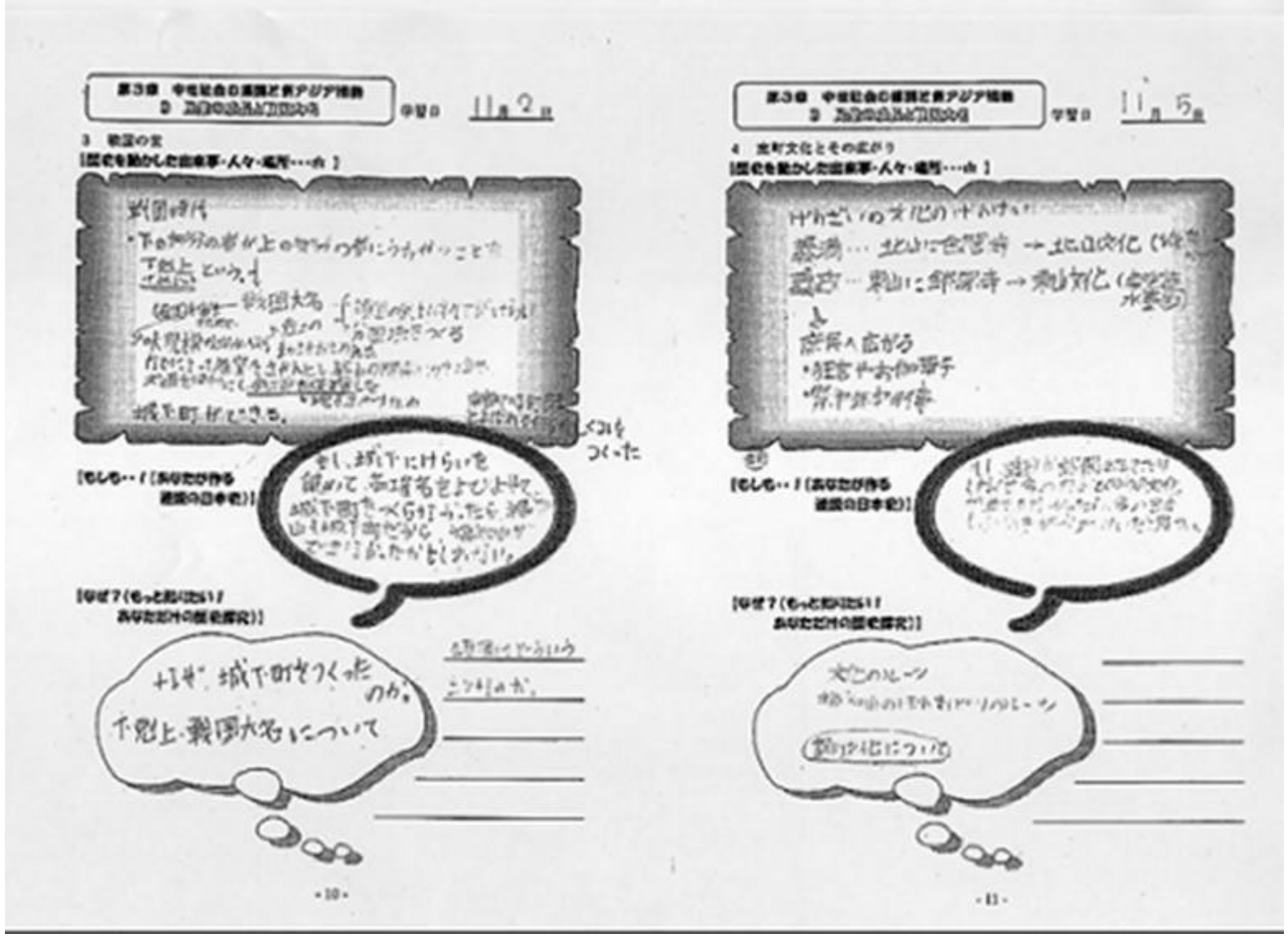
特に、本単元では、元寇、南北朝の争乱などを通して武家社会の展開を理解する「情報の収集とその考察」における学習のつまずきが、歴史の流れをとらえる軸となる知識の不足をまねきかねないと考えた。そこで、この段階で、前時に学んだ内容の確認テストを授業開始５分間で行い、年号や人物名等の歴史用語の確実な定着を図った。また、この取組は、家庭学習の習慣付けにもなると考えた。

単元全体を通しては、適宜、ノートの点検等で生徒の学習状況を把握し、定着が不十分な点については繰り返し指導を行った。さらに、疑問点や生徒が自分で調べても分からなかったことを連絡カードに記入させ、それに教師がメッセージを添えて回答するなど、個々の生徒の学習の状況に応じた手だてを行った。

(ｳ)　歴史の追究方法（学び方）を学ぶ学習の充実

歴史的事象の追究方法にかかわる学び方を学ぶことを直接的に指導することは難しい。それは、主として、学習の過程においてはぐくまれていくものと考える。本単元において、課題追究的な指導過程としたのもそのためである。

また、多面的・多角的な思考・判断ができるような学び方の学習においては、歴史的事



第3章　中世社会の展開と東アジア諸国
3　為政者の出現と武士の成長

学習日　11月2日

3　秋深の交

【歴史を動かした出来事・人々・場所…由 】

戦国時代

・下の身分の者が上の身分の者にうちかつことを下剋上という。

戦国大名

城下町ができた。

くふうをつくった

【もしも…！【あなたが作る 歴史の日本史】】

そし、城下にけらいを住まわせ、商工業者をよびよせて、城下町をつくりはじめたら、城下町は山も城下町だから、城はやっぱりでっかいほうがよかったかもしれない。

【なぜ？（もっと知りたい！ あなたなりの歴史探究）】

なぜ、城下町をつくったのか。

下剋上・戦国大名について

- 10 -

第3章　中世社会の展開と東アジア諸国
3　為政者の出現と武士の成長

学習日　11月5日

4　北町文化とその広がり

【歴史を動かした出来事・人々・場所…由 】

やまざとの文化のはじまり

義満…北山に金閣寺 → 北山文化（禅宗、水墨画）

義政…東山に銀閣寺 → 東山文化

↓

庶民へ広がる

・能や狂言

・茶や花

【もしも…！【あなたが作る 歴史の日本史】】

【なぜ？（もっと知りたい！ あなたなりの歴史探究）】

文化のルーツ

東山文化について

- 11 -

象に「なぜ」と問いかけていくことが大切である。そこで、生徒には「なぜ」という疑問をもつことが評価されることを「課題把握」の段階から繰り返し伝えた。また、p.96で示した「社会科歴史ノート」の情報整理欄の項目は、歴史的事象の追究方法を学ばせる観点から設定したものである。

(a) 「歴史を動かしたできごと・人々・場所」欄
→歴史の大きな移り変わりをとらえさせる。
(b) 「もしも・・！（あなたが作る逆説の日本史）」欄
→もしそのできごとがなければ歴史はどうなっていたかを考えさせる。
(c) 「なぜ？（もっと知りたい！あなただけの歴史探究）」欄
→「なぜ」という疑問を中心に、深く追究したいことをメモしておく。

この欄への記入を含め、生徒には、授業中に疑問に思ったことをそのままにせず、メモしておくことが大切であることを日常的に指導してきた。「なぜ」や「もし」を始め、歴史的事象に対して疑問をもつことは、知的好奇心や探究心を喚起する。別の角度から言えば、このことが粘り強く課題に取り組むための第一歩であると考える。

イ　自己肯定感にかかわって

作業的な学習では、グループでの活動を取り入れ、一人一人の生徒に役割をもたせ、役割遂行の過程を指導しながら自己肯定感を実感させることができる。しかしながら、今回の歴史新聞づくりをグループで行った場合、新聞を完成させる段階で、作成者以外は何もすることがない状態になってしまう。また、新聞記事としたい内容は個人によって様々である。新聞の作成を個人の作業とした場合は、記事の選定、事象の考察、読み手を意識した新聞づくりなど、自己決定することがらは多くなる。確かに学習活動の負担は大きくなるが、その分、完成したときの達成感をより実感させることができる。既述のとおり、歴史新聞を一人一作品としたのはこの理由による。

また、自己肯定感が実感できるには、学校生活全般にわたって、共感的な人間関係がはぐくまれていることが大切である。授業においても、この点に配慮した指導が求められる。さらには、学習過程及び成果を振り返ることにより、自分の積極的な面やよさに気付くことも自己肯定感の実感にとって大切なことである。本単元では、こうした自他のよさに気付かせることに配慮し、次のような具体的な指導上の工夫を行った。

(ｱ) 新聞記事の見出しの交流
(ｲ) 事後の取組を含めた新聞の自己・相互評価

(ｱ) 新聞記事の見出しの交流

自他のよさに気付かせるには、どのようなことがらに対しての「よさ」なのかを明らかにしておくことが大切になる。中学生にとっては、例えば「できる」「できない」などで序列化されることについて抵抗感をもつことが多い。そこで、「歴史新聞を作ろう！」では、新聞記事の見出しを交流することで、学級の中には多様なアイデアがあること、同じ事象を取り上げても様々な見方や考え方ができることに気付かせ、そのよさに気付かせることにした。

見出しの交流に当たっては、意図的に他学級の特色ある見出しを知らせることで、交流

への意欲をより高めることにした。また、見出しを決めかねている生徒には、どのようなテーマを考えているかを発表させるなど、学級の全員が発言の機会をもった。

例えば、承久の乱を取り上げた２名の生徒の見出しは次のとおりであった。

- 「危機一髪、政子のうったえ幕府をすくう」
- 「上皇は幕府の大軍に敗れる」

これは、承久の乱を北条政子と後鳥羽上皇といった異なる人物から考察する生徒がいたことを表している。

また、足利義満を取り上げた２名の生徒の見出しは次のとおりであった。

- 「かがやく義満」
- 「義満の短かった一生」

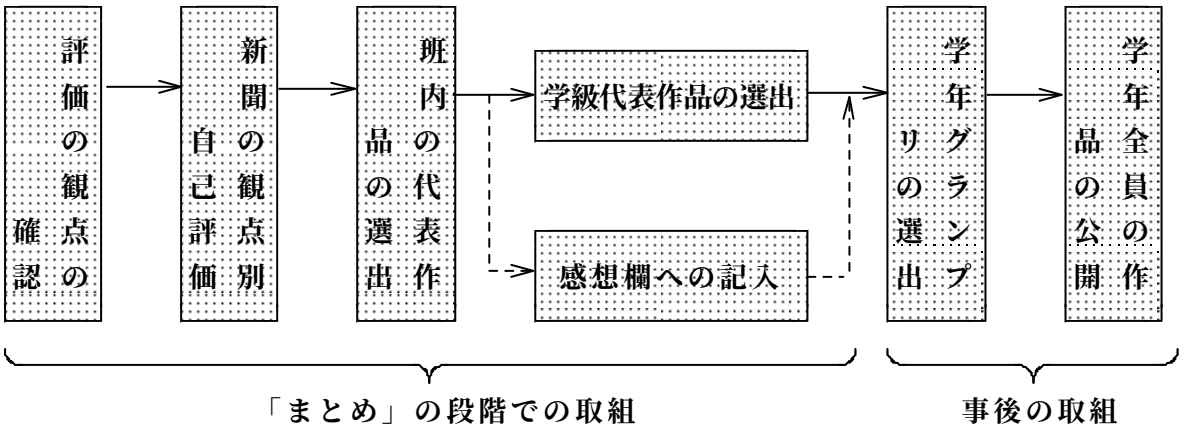
足利義満の人物像に迫るのに、前者は、鹿苑寺金閣の輝きと結び付けて考察した生徒、後者は、義満の生い立ちと業績を当時の時代背景と結び付けて考察した生徒の見出しである。

(ｲ) 事後の取組を含めた新聞の自己・相互評価

学習活動の自己・相互評価は、その機能の重要性により、近年さかんに取り入れられるようになった。「歴史新聞を作ろう！」においても、「まとめ」の段階で、新聞の自己・相互評価を行った。評価用紙は、観点を決めてそのことについて評価する項目と、新聞づくりを終えての感想を自由記述する項目とに分けて作成した。評価の観点は、「見出しの設定」など、これまで重点的に指導したことを中心に設定した。

（歴史新聞の自己・相互評価の観点）
- 全体の構成　（記事の量、バランス、絵や色づかいなど）
- 見出しの設定（印象度、興味をさそう内容、記事との関連性など）
- 記事の内容　（読みやすさ、見出しとの関連性など）
- 丁寧さ　（文字や絵などの書き方、見た目など）
- おもしろさ　（好きな人物やコラム欄などの内容、絵など）

取組の流れは、次のとおりとした。



※　「感想欄への記入」は、学級代表作品の投票集計中に終えることを基本として進めた。

自由記述の感想欄には、新聞のできばえに加え、学習過程を振り返ってどうであったか、級友の作品を見てどんなことに気付いたかを考えさながら感想を記入させた。学年全員の作品の公開については、貼り出しの形式を歴史的事象の時系列とした。これにより、中世の日本に関する年表を学年全員で作り上げたという意識の醸成に効果があった。

（6）子どもの様子

ア　歴史新聞づくりの自己評価

単元終了後に、生徒全員を対象にアンケート調査を行った。

●「歴史新聞づくり」について、あてはまるものに○をつけてください。

アンケート項目	大変思う	思う	あまり思わない	思わない
(1) 新聞を作ることで、歴史に対する興味や関心がわいてきた。	２５ 16.5%	８０ 53.0%	３７ 24.5%	９ 6.0%
(2) 歴史のできごとや人物について、自分でいろいろ考えるようになった。	２２ 14.7%	６６ 44.0%	５４ 36.0%	８ 5.3%
(3) いろいろな資料をうまく使うことができた。	２９ 19.3%	６７ 44.7%	４５ 30.0%	９ 6.0%
(4) 新聞を作ることで、歴史の内容がよくわかるようになった。	４４ 29.5%	６８ 45.7%	３１ 20.8%	６ 4.0%
(5) 見とおしをもって取り組むことができた。	２４ 16.1%	６０ 40.3%	５６ 37.6%	９ 6.0%
(6) よりよい新聞を作ろうとがんばって取り組んだ。	５７ 38.2%	６７ 45.0%	２２ 14.8%	３ 2.0%
(7) 新聞が完成したとき、やりとげたという気持ちをもつことができた。	６５ 41.7%	４７ 30.1%	２６ 16.7%	１８ 11.5%
(8) グループや学級で新聞を交流したり、評価し合うことで、他の人すばらしさに気づいた。	５４ 34.8%	６２ 40.0%	２７ 17.4%	１２ 7.8%
(9) 自分なりに工夫した見出しを考えることができた。	３９ 25.8%	６３ 41.7%	４３ 28.5%	６ 4.0%
(10) また、新聞づくりをしてみたい。	４４ 29.5%	５４ 36.2%	３５ 23.6%	１６ 10.7%

（※無記入の回答は省いてある。また、上段は人数、下段は割合を示す。）

(ｱ) 設問(1)～(4)の結果

設問(1)～(4)は観点別学習状況の評価の観点にかかわる設問とした（設問(1)は「社会的事象への関心・意欲・態度」、設問(2)は「社会的な思考・判断」、設問(3)は「資料活用の技能・表現」、設問(4)は「社会的事象についての知識・理解」にかかわる項目）。

設問(1)「歴史に対する興味や関心がわいてきた」について、「大変思う」「思う」とした生徒は69.5%であった。この設問について、多くの生徒が肯定的な回答であったことが分かる。

設問(2)「歴史のできごとや人物について、自分でいろいろ考えるようになった」及び設問(3)「いろいろな資料をうまく使うことができた」についても肯定的な回答が多かった。ただし、いずれも40%前後の生徒が「思わない」「あまり思わない」としており、今後、この点について一層の授業改善が望まれる。

設問(4)「歴史の内容がよく分かるようになった」について、「大変思う」「思う」とした生徒は75.2%であった。特に、「大変思う」とした生徒が29.5%いたことは、普段の授業以上に歴史的事象についての理解が深まった結果の現れと考える。

以上のことから、これらの設問において、今回の歴史新聞づくりは「おおむね満足できる状況」にあったと言える。なお、質問項目は生徒の学習状況の一端を知ることをねらいに設定したものであり、これらの結果をもってすべての学習状況を把握できるとすることは早計である。

(ｲ) 設問(5)～(10)の結果

設問(5)～(10）は研究内容にかかわる設問とした（設問(5)及び(6)は自己コントロール力、設問(7)～(10)は自己肯定感にかかかわる項目）。

まず、設問(5)「見通しをもって取り組むことができた」について、「大変思う」「思う」とした生徒は56.4%であった。設問(6)「よりよい新聞を作ろうとがんばって取り組んだ」では83.2%であり、(1)～(10)の設問の中で最も高い値となった。自己コントロール力にかかわって肯定的な回答をした生徒が多かったことが分かる。

自己肯定感にかかわっては、すべての設問において、65%以上の生徒が肯定的な回答をした。今回の「課題学習」は、これまで以上に「自己肯定感」が実感できた学習であったと推測することができる。第２章におけるアンケート結果と安易に比較することは避けたいが、次の結果がそのことをよく表している。

第２章におけるアンケート結果（中学校１年全体）

設問10　作品やレポートづくりに取り組んだ時、充実した気持ちになることが多いですか。

ア　大変多い 6.6%　イ　多い29.2%　ウ　あまり多くない43.9%　エ　少ない　20.3%

歴史新聞づくりにかかわるアンケート結果（研究協力校１年）

(7)　新聞が完成したとき、やりとげたという気持ちをもつことができた。

ア　大変思う41.7%　イ　思う30.1%　ウ　あまり思わない16.7%　エ　思わない11.5%

また、設問(8)及び設問(9)の結果からも、新聞の交流や評価により、他の生徒のすばらしさに気付いたり、見出しを自分なりに工夫できた生徒が多かったことが分かる。

なお、設問(5)では、「あまり思わない」「思わない」とした生徒が43.6%いた。今回、「課題学習」に見通しをもって取り組む工夫の一つとして「社会科歴史ノート」の活用を

図った。しかし、記事の決定にそれを活用できなかったり、記録そのものが取れていない生徒も一部に見られた。「社会科歴史ノート」の活用の在り方が今後の検討課題となる。

イ　歴史新聞づくりを終えた感想文

歴史新聞づくりを終えた生徒の感想文からは、課題解決に向けて粘り強く取り組んできた様子をうかがい知ることができる。また、級友や他の学級の生徒の作品を見て、そのすばらしさに気付く感想文も見られた。全体としては、歴史新聞づくりの学習活動に否定的な意見はほとんど見られなかった。

以下に示すのは、生徒の感想文の一例である。

> 新聞作りをして思ったことは、とても楽しかったということです。思った以上に難しくて、記事が見つからなくて大変でした。でも、この新聞をつくってみて、勉強にもなったし、また、ちがう時代の新聞も作ってみたいと思います。グランプリの人の新聞はすごくて、とってもびっくりしました。

> この新聞を作って、歴史というのは奥が深いなと思いました。でも、私の好きな人物の資料がない、というトラブルがおきました。あんまり、いい資料がなかったため、本屋に行って探してみたりなど、結構大変でした。でも、やっぱり楽しかったし、何より歴史の奥の深さとおもしろさが分かることができたのが、一番新聞を作ってよかったと思えたことでした。まだまだ調べてみたいことがあったので、次に新聞を作る機会があったら、そのことについても調べていきたいです。また、授業の中で習ったことも生かしていきたいです。

ウ　社会科学習に関する意識調査（９月、12月）の比較

(ｱ) 社会科の好き嫌い傾向

●あなたは社会科の勉強が好きですか。

	９　月	12　月
ア　とても好きです	１７（１１．１%）	２９（１８．９%）
イ　どちらかというと好きです	５６（３６．６%）	６５（４２．５%）
ウ　あまり好きではありません	６１（３９．９%）	５０（３２．７%）
エ　ぜんぜん好きではありません	１９（１２．４%）	９（　５．９%）

この結果は、社会科の勉強が「とても好き」「どちらかというと好き」とする生徒が増えたことを表している（９月47.7%、12月61.4%）。このことは、「歴史新聞を作ろう！」に加えて、次の単元で「歴史地図を作ろう！」をテーマとする「課題学習」を行うなど、２学期全体を通じて授業改善に努めたことが、生徒に肯定的に受け止められた結果の現れと考えることができる。

(ｲ) わからないことやできないことがあるときの対応

９月の段階で、**設問「あなたは、社会科の学習で、わからないことやできないことがあるときはどうしますか」**（回答は一つ）において、回答人数及びその割合は右のとおりであった。そこでは、「自分で調べたり、練習したりする」がおよそ20%という結果であった。また、「そのままにしておく」は10.9%であった。

【９月】・・・・・普段の社会科学習において	
ア　そのままにしておく	１７(１０．９%)
イ　自分で調べたり、練習したりする	３１(１９．９%)
ウ　先生に聞く	５(　３．２%)
エ　友達に聞く	６７(４２．９%)
オ　家の人に聞く	３２(２０．５%)
カ　その他	４(　２．６%)

それに対し、12月実施の**設問「『歴史新聞』づくりで、わからないことやできないことがあったときどうしましたか」**では、「自分で調べた」が65%を超える結果となった。また、「そのままにしておいた」は1.4%であった。単元全体を通して、安易に他者に頼らず、自分なりの見方や考え方をもちながら歴史的事象を考察することを指導してきたことから考えると、この結果は望ましい状況を示している。

【12月】・・・・歴史新聞づくりにおいて	
ア　そのままにしておいた	２(　１．４%)
イ　自分で調べた	９７（６５．５%）
ウ　先生に聞いた	８（　５．４%）
エ　友達に聞いた	２２（１４．８%）
オ　家の人に聞いた	１３（　８．８%）
カ　その他	６（　４．１%）

(ｳ) 歴史学習の受け止め方

９月、12月いずれにおいても、「あなたが歴史学習について感じていることを自由に書いてください」という設問を取り入れた。それに対する生徒の記述には、「調べる」「考える」をキーワードにしたものがある。９月と12月の記述を比較すると、12月のものが「調べる」「考える」活動を学習の満足感や学習習慣の定着と結び付けてとらえる記述になっている。また、９月、12月ともに歴史像の構築や歴史学習の意義にかかわる記述も見られる。それについては、12月のものが、自らの歴史像をより豊かにしたり、歴史学習の意義を一層積極的にとらえる記述となっている。

●「調べる」「考える」をキーワードにした記述

【９月】
☺　昔の人のほうが、頭のいい人が多いような気がした。もし、こうなっていたら、歴史がどうなっていただろうと考えるとおもしろい。

【12月】
☺　いろいろ覚えたりするのが多いのですっごく大変だと思う。けど歴史は昔の人がしたたくさんのことを知れるし、やっていると続きが知りたくなったり、そのことをもっと考えるようになったりして、まんがみたいな感じです

ごくたのしい教科だと思う。
◎　昔の政治とか知らない事がたくさんある。それを知ると、なるほどーと思ったり、へえーと思ったりして知れば知るほどなぞがたくさんでてきて、それを自分で調べたり友達に聞いたり、先生に聞いたりすると、満足感がある。わかればすごく楽しい。
◎　新聞を作ることによって、資料のひきかた（さがしかた）がわかった。昔の政治の治め方、しくみがよりよく分かるようにしたい。学習をしていて、分からない所があったら、人に聞く前に、分からない所は資料で調べて、それでも、分からなかったら聞く、という習慣をつけていくようにしたいと思いました。　など

●歴史像の構築や歴史学習の意義にかかわる記述

【9月】
◎　歴史のときは不思議に感じます。昔はこんなことができるんだな、とよく思います。
◎　昔の人のほうが、頭のいい人が多いような気がした。もし、こうなっていたら、歴史がどうなっていただろうと考えるとおもしろい。

【12月】
◎　昔の人のちょっとした行いで、歴史が変わることがたくさんあるので、昔の人の行いのおかげで、今の日本や、世界はあるのかもしれないと思った。歴史を学習していくと、原点とはいえないけれど、大部分が、歴史は宗教がかかわっていると思う。だから、今の社会の土台は、宗教なのではないかと思った。
◎　歴史の本の中に、たくさんの戦いがあったけど、でも本当は教科書の中にはのっていない、いろいろな戦いがあるだろうと少し思っている。それと、昔の人は、頭がいいんだなーと思った。それとこれからの学習は、もっとしずかにやりたい。
◎　難しいことだけど昔のことを学習するのはおもしろいです。昔は今とこう違うんだなあと思っている。歴史学習をしていていつも思っていることは、何で昔の人は身分制度をつくったのか。今では考えられないような制度を作っているのか。これからも昔のこと（歴史）をしっかり学習していきたい。

(7) まとめ（成果と課題）

「歴史新聞を作ろう！」をテーマとする「課題学習」において、次のような成果と課題が見られた。

ア　成果

○　大きな時代区分を一つのまとまりとして課題を設定し、生徒が主体的に歴史的事象の追究を深めていく学習において、今回の歴史新聞づくりの指導計画は研究主題に迫るのに効果的であったと考える。

○　単元指導計画に研究の視点を組み込んで実際の指導を行った結果、生徒が「やり遂げたという気持ちをもつことができた」など、自己肯定感が実感できる学習とすることができた。

○　「情報収集とその考察」の段階で確認テストを実施したり、歴史新聞を作ることが歴史内容の一層の理解に結び付いたりするなど、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導とすることができた。

イ　課題

○　見通しをもって追究活動に取り組ませるための「社会科歴史ノート」の活用の在り方を今後検討することが必要である。

○　この「課題学習」で習得した歴史の学び方が、以後の学習でどのように生かされたかを把握し、学び方を学ぶ学習の充実につなげていくことが大切である。

○ 他校種や他教科における研究の成果に学ぶなど、「自己コントロール力が育ち、自己肯定感が実感できる学習」の方策をさらに探っていくことが求められる。

研究全体を通して言えることは、自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむ上で、何にもまして教師の果たす役割はきわめて大きいということである。

自己コントロール力と自己肯定感は一朝一夕にではなく、継続的な授業改善の中ではぐくまれていくものである。中学校社会科では、学期を通した授業改善が生徒のプラス面での変容を引き出すことにつながったと考える。今後は、１年間を通じて生徒にどのような変容が見られるかなど、さらなる実践的な研究を積み重ねていくことが求められる。